



物語部門

やなやつ改造計画

吉野 万理子/作
(あすなろ書房)

91・3

中3になったら生徒会長に立候補りっこうほすると決めた光也。友達のヤナギに協力を求めると、「やなやつ偏差値60」の光也が、人気投票の生徒会長に当選するわけがないと言われてしまう。幼なじみモリリの協力も得て、光也達は「いいやつ」になる研究を始めるが、自分を変えるって難しい。生徒会長に立候補したのは3人。光也、性格分析が得意な亜貴ちゃん、テニス部キャプテンで女子に人気の平野くん。所信表明、ピラ配り、立会演説会の選挙期間が終わり、当選したのは…！？



物語部門

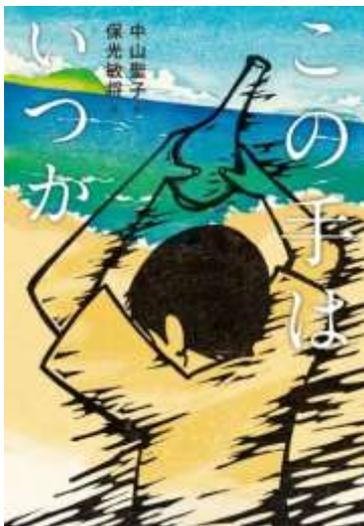
ラント！

クレイグ・シルビー/作

(静山社)

93・シ

アニーのくらすアップソンドウンズでは、雨が降らないうえに、意地悪な地主によって川がせきとめられ、人々が次々と町を去っていった。アニーは家族やさびれていく町を救うため、野良犬のラントと障害物レースに出ることにする。もしレースで優勝すれば、多額の賞金がもらえるからだ。ただ、出場するには大きな問題があった。ラントはアニー以外の見物客が見ている前では絶対に走らないのだ。どうやってこの問題を解決するのか。11歳の少女アニーとラントの世界大会への挑戦が始まる。



物語部門

この手はいつか

中山 聖子/作

(文研出版)

91・ナ

飼育委員の真潮^{ましお}は、学校で飼っている金魚の世話をめぐって、同じクラスの子に手をあげてしまう。言いたいことをうまく言えない真潮は、自分の本当の気持ちを誰にも伝えられずにいた。そんなとき、熱中症でたおれた真潮の前に祖父が現れる。夏休みの間、母親と離れて、山口県萩市で祖父とふたりで暮らすことになった真潮。祖父や萩で出会った同い年の希沙^{きさ}と過ごすうちに、真潮は、ずっとおさえこんでいた自分の思いを話せるようになっていく。



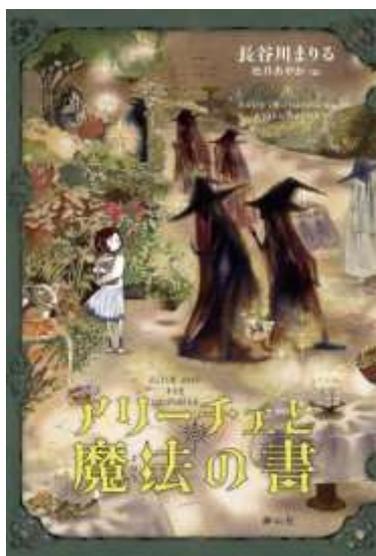
思いがけず、朝子ちゃん

高村 有/作
(童心社)

91・タ

物語部門

25歳の朝子は人間関係から東京での仕事を辞め、浅間山のふもとの街で祖母の花屋の手伝いを始めた。そんな朝子の身近に暮らす10代の子どもたちの物語5編。月一回の私服登校で同級生の目線を気にしてしまう美月、きつい子に無視されているみちる、父親のいない莉子、新しい母親に赤ちゃんができて居場所がないふみか、過去のやらかしがずっと心の奥に引っかかる晴臣…思春期まっただ中の彼らが、偶然出会う朝子と植物をきっかけに少しずつ前向きになってゆく。



アリーチェと魔法の書

長谷川 まりる/作
(静山社)

91・ハ

物語部門

アリーチェの家は一見して普通の本屋だが、この世に一冊しかない魔法の《本》を身に来る魔法使いたちがお客だ。その《本》は《守り手の一族》であるアリーチェの家が代々守ってきた。アリーチェは魔法使いになりたいのに、《守り手の一族》は魔法使いになれない。《本》は、それぞれの魔法使いの属性や能力に応じた呪文だけが読める仕組みで、習得できない呪文が書かれた部分は白紙にしか見えない。アリーチェは十三歳の誕生日を迎え、ついに《守り手》の仕事を引継ぎ、《本》を開く時が来た。



物語部門

Q世代塾の問題児たち

石川 宏千花/著

(理論社)

91・イ

「ルッキズム」を知らず、好きな男子からばかにされた空乙は、世の中を知りたい！と思う。そんな時に見つけたのが＜Q世代塾＞。先生は高校生の2人、生徒は小学生から高齢者まで幅広く、「もしあなたが自分のことを猫だと思うようになったらどうしますか？」なんて疑問について話し合う、ちょっと変わった塾だ。空乙はQ世代塾に通い、疑問を自分なりに考えてみたり、他の生徒の意見を聞いたりするうちに、様々なことに気づき始める。



物語部門

ミクとオレらの秘密基地

真栄田 ウメ/作
(岩崎書店)
91・マ

海辺の田舎町に、転校生がやってきた。同じクラスになったケンジによると、その子は何を言っても「笑わない女」らしい。オレは芝やんと一緒に、ヤマトミクという転校生を笑わせてやろうと決めた。体が弱くて休みがちなミクの家を訪ねたり、秘密基地に案内したりするうちに、ミクの本音がわかってくる。「トモダチっていったいどこからなんだろう？」ミクの問いに、オレたちは答えを見つけることができるのか？！



物語部門

ぼくへのレファレンス

岩崎 まさえ/作
(国土社)
91・イ

リョウは、図書館での体験学習中、貴重書庫で背中に妙な視線を感じた。カウンターにいたリョウに、謎の少年が不思議な形の記号について、「レファレンスサービス（調査・相談）」を頼んで消えた。手がかりは少年の書いた記号といくつかの言葉だけ。図書館で出会った「郷土史研究中」のおじいさんと郷土資料を調べ、記号に隠された江戸時代の秘密にたどりついた。そのあと一緒に現地調査に向かうことに…。「どんなことがあっても、真実はごまかせない」少年とリョウ、昔も今も家族への思いは同じだった。



そして砂漠は消える

マリー・パヴレンコ/作
(静山社)

95・パ

物語部門

12歳の少女、サマアは、砂漠で暮らしていた。ハンターが狩ってくる木を売り、生活に必要なものを手に入れていた。サマアは、自分もハンターになりたいと思っていたが、部族の掟により許されない。一人で密かに旅の準備を進め、ハンターたちの後を追ったサマアは、途中で大きな穴に落ちてしまう。そこには探し求めていた木があった。穴から出られないサマアは、木とともに長い月日を過ごすうち、忘れられていた真実に気づく。



消えたモナ・リザ

ニコラス・デイ/作
(小学館)

72・デ

ノン
フィクション
部門

1911年8月、パリのルーブル美術館から「モナ・リザ」が盗まれた。新聞でも大きく取り上げられ、警察は捜査を続けるが、犯人にたどりつくことができない。この盗難事件をきっかけに、ごく一部の人にしか知られていなかった「モナ・リザ」は、世界中の人々から注目される名画へと生まれ変わる。誰が盗んだのか、なぜ、警察はすぐに犯人を見つけることができなかったのか。レオナルド・ダ・ヴィンチの人生とともに、「モナ・リザ」をめぐる事件の謎と名画の秘密が明かされていく。



読書感想文が終わらない!

物語部門

額賀 湊/作
(ポプラ社)
91・ヌ

水泳が得意で本を読むのが苦手な6年生の栄人は、夏休みに、学校の図書室に読書感想文のための本を借りに行った。そこで出会ったのは、真っ赤なフレームのめがねをかけ、左耳あたりの髪を金髪に染めた中学生の女の子「フミちゃん」。フミちゃんは、栄人に本を3冊すすめてくれて、この場で本を選んで下書きをするようにと言う。いろいろなやみをもつ小学生たちとフミちゃんのが、読書感想文を通して成長するひと夏の物語。

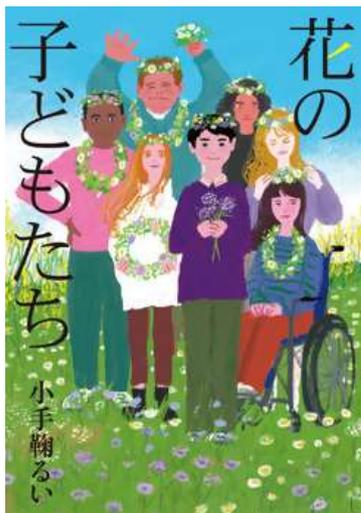


ぼくたちの卒業写真

物語部門

天川 栄人/作
(文研出版)
91・テ

「クラギ写真館」を営むカメラマンのパパを尊敬する中学3年生の蔵木幸也は、自分も将来カメラマンになりたいと思い、日々修行している。パパは毎年、幸也の中学校の卒業アルバムの撮影をしている。ある日幸也は、クラスの中心人物の星野君に、今年の卒業アルバムの個人写真を、もっと生徒それぞれの個性が目立つ自由なものにしたいと相談される。そんな時、パパが腕を骨折してしまう。星野君の後押しで、幸也が代わりに卒業写真を撮れるかどうか、試しに同級生を一人、撮ってみることになる。



物語部門

花の子どもたち

小手鞠 るい/作
(フレーベル館)
91・コ

日本で生まれ育ったカイは、小学校を卒業後、母親とアメリカで暮らすことになった。入学した中学校では、毎月一回、授業の一環として討論会が行われる。決められたテーマについて、意見を発表し、自由に討論するのだ。英語にもまだ自信がないカイだが、討論会の出場者7人のメンバーに選ばれる。



物語部門

てまりのナゾほどき帳

荒川 衣歩/作

(講談社)

91・ア

時は江戸時代の長崎。13歳のとまりは、異国への憧れを密かに抱きながら、父と二人で古着を売り買いする店を営んでいる。そこへ怪しげな男が季節外れのはんてんを持ち込んだことから、事件に巻き込まれるのだった。どうやらそのはんてんが江戸の手配者との取引道具らしい、と突き止めたとまりは、親友の綾、偶然出会った医者見習いの正一郎たちと事件解決に挑む。



物語部門

オーサム！国語塾

清水 晴木/作

(岩崎書店)

91・シ

オーサム国語塾の今井修先生は、学校の先生と違って少し変わっている。先生は、国語を勉強することで、日常もよりよいものになっていくって言うけれど、本当かな。塾名にもなっている「オーサム！」って、どういう意味なんだろう…。自分の言いたいことが言えない湊、真面目だからこそ悩みが多い凧、勉強は好きじゃないし将来の夢もない碧。塾生たちは、国語の解き方をヒントにすることで世の中を見る目が変わっていき、悩みを解決していく。



物語部門

ランドリーの迷子たち

シャネル・ミラー/作
(ほるぷ出版)
93・ミ

もうすぐ10歳を迎えるマグノリア・ウーの夏休みは、何も予定がない。忙しく働く両親のコインランドリーで手伝いをするだけ。そんな時、同じ年のアイリスがカルフォルニアから引っ越してきた。アイリスは、マグノリアがお店で見たかたっぽの靴下の持ち主を見つけに行こうと誘う。マグノリアは自分の育ったニューヨークの街を案内しながら、アイリスと知恵を出し合っていくうちに、意外な持ち主にたどり着く。



ノン
フィクション
部門

もしも君の町がガザだったら

高橋 真樹/著
(ポプラ社)
30・タ

パレスチナのガザ地区とイスラエルの間では今なお戦争が続いている。私たちは遠い世界の話と無関心でいていいのだろうか。パレスチナの人達がどんな思いで生きてきたのか、歴史をひも解いてみよう。「もしも君の町がガザだったら……」、「もしも君の町がイスラエルだったら……」という部分を読んで、両方の立場になって想像してみてほしい。背景を知ることによって君たちができることが見つかる。